同和問題（道徳）学習指導案

3年D組　男子19名　女子18名　計37名
指導者　　後藤田　寿　子

1　主　　題　　誇りうる生き方を求めて

2　主題設定の理由

大きな期待と希望を持って集まった37名の仲間たちと共に最終学年をスタートして早，半年以上を経過した。一見，平穏そうに過ごしている生徒たちではあるが，さまざまな形の悩みや苦しみを背負って生きている。また心の奥底では進路についての不安や焦りが渦巻いており，心は大きく動揺している。それだけに，こうした生徒たちの悩みや苦しみを自分のものとして共に感じ共に生きていく教師であり続けたい。そして誰一人として悲しくつらい思いをすることのない学級を目指して共に支え合い励まし合いながら歩んで行こうと願いながら，学級生活の諸活動を通し，温かい仲間づくりに取り組んでいる。

1学期「自分以下を求める心」の学習を通して差別の本質と自らの差別性に気づき，人として大切な生き方，人間らしい生き方とは何かについて学んだ。また「娘の遺してくれたもの」を通して厳しい部落差別に負けることなく真実を求めて生きた青年と愛子さんの生き方に心を打たれた。そして，相互の信頼関係が同和問題の解決のためにいかに大切であるかを認識した。「今，光っていたい。」という愛子さんの思いの中に水平社宣言の「熱と光」を感じた。さらに「同和教育への希い」を通して厳しい部落差別の中を生き抜いてきた丸岡さんの苦悩に出会い，胸がはりさけそうな痛みを覚えた。差別に負けることなく自ら立ち向かって生きた丸岡さんの勇気ある，すばらしい生き方を学ぶことにより人間としての生き方を追求してきた。

そうした学習を通して生徒たちの心の中に差別解消への熱い思いが徐々にはあるが，生まれつつあり本音でぶつかり合う姿がみられるようになった。そんな中，クラスのA子が同和問題意見発表会で自分は地区出身だと宣言した。途中，過去の悲しかった出来事や辛かった思いがつのってきて涙で途切れながらも切々と自分の思いを訴えた。その彼女が代表として郡大会へ出場。他校の生徒たちの前でも胸をはって地区出身を名乗り，仲間と連帯して差別と闘いながら一生懸命，生きていくという熱い決意を心から訴えた。私は彼女の生き方の中に丸岡さん自身が宿っているかのように思えた。とても強く逞しく思えたA子ではあったが，彼女は「同和教育への希い」を学習する前には「私は自分が部落の生まれだということをみんなの前で言うのが怖い。それは何よりも恐ろしい。みんなの視線を感じるからだ。」と日記に書いてきた。その彼女が「同和教育への希い」の学習を通して丸岡さんの生き方に共感し「今まで私は差別から逃げ出すことばかり考えていた。逃げるのではなく立ち向かっていくという強い勇気がわいてきた。丸岡さんのように強く生きていきたい。」との感想を書いてきた。彼女の心の痛み，解放への叫びに出会い，私は胸がしめつけられる思いがした。差別の重みを背負いながらも，ひたむきに一生懸命生きているA子をこれほどまでに悲しませている差別を絶対に許してはいけないと心から思う。こんなA子を見てB子は「みんなを信頼してその重い言葉を言ったA子は本当に素晴らしいと思う。その強い心と勇気を見習いたい。A子に

寄りそって共に部落差別と闘っていきたい。」と綴っている。こんな友がいる反面，他人事として考え「自分には関係ない。」というとらえ方の生徒もおり学級はA子を十分に支えきる集団にまで高まっていない。A子に連帯し，真に支え合う集団を育てたい。そして部落問題を自分の問題としてとらえ共に差別解消に取り組むことが私たちの課題であり，全ての人間の幸福につながることだということを理解させたい。

そこで，全ての人間の解放を高らかにうたいあげた「水平社宣言」を通して厳しい差別の中を生き抜いてきたがゆえに全ての人間の幸せを願い，人間の尊厳を守りぬくために命がけで闘った人々の生きざまや思想に触れ，人間として誇りうる生き方とは何であるかを生徒と共に求めていきたいと願い本主題を設定した。

3　ねらい

厳しい差別の中で全ての人間の解放をうたいあげた「水平社宣言」の精神を学ぶ中で，人間の尊厳を守りぬくために命がけで闘った人々の誇りうる生き方に共感させ，部落問題を自分の問題として積極的に差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

4　視　　点　　集団と連帯

5　指導計画

(1)　常時指導　「あゆみ」や「1分間スピーチ」で自分をみつめる機会を持たせている。

(2)　関連的指導（道　徳）「ああ，飛驒が見える」

差別社会の構造に気づかせ，繁栄のかげに民衆の哀史があったことを理解させる。

(3)　核心的指導　第一次　「水平社宣言讃歌」……2時間

第二次　「水平社宣言」……4時間（本時4／4）

(4)　発展としての関連的指導（学　活）「人間としての生き方に学ぶ」…1時間

人間としての正しい生き方とはどんな生き方かを話し合い，さらに考えを深めさせる。

(5)　常時指導（発　展）　何でも語り合い，支え合う仲間意識を高める。

6　本時の目標

(1)　目　　標

人間としての誇りうる生き方を追求させ，自分自身を見つめ，今後同和問題とかかわってどのように生きていくかを考えさせる。

(2)　展　　開

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
1　「水平社宣言」を読んで，心に残ったことを話し合う。	○　どんな所が心に残ったか，どんな思いが伝わってきたか話し合わせる
2　「水平社宣言」から学んだことをもとに今後の自分たちの生き方について話し合う。	○　全ての人間の解放をめざしていることに気づかせると共に今後の自分たちの生き方を考えさせる。

徳島県中学校同和教育研究大会

「水平社宣言」　板野中　３Ｄ　　１９９１，１１，１９

起立　礼

T: 中学校３年間の同和問題学習を今日はその総まとめという形でこの一時間「水平社宣言」によせるみんなの思いを語り合いながら人間としての誇り得る生き方とはどんな生き方かということについて一緒に考えていきたいと思います。１９２２年の３月３日京都の岡崎公会堂で行われた水平社宣言これは部落民衆の熱い血潮から生まれたものであって部落民衆の熱い思いが込められているんですね。でその宣言文を一回読んでみますからじっくりと味わってほしいなぁと思います。ちょっと宣言文のほう見て下さい。　ー資料を見る用意ー

「宣言」を範読する

この水平社宣言を学習してまず心に残った文それは何かっていうこと。それからそれはなぜ心に残ったかっていうことについてみんなのいろいろな思いを語り合いながらどんな思いが伝わってきたか話し合っていきたいと思います。みんなどうですか。

はい池田君。

S: 『今は泣いている時ではありません』というところで本当に今泣いている時ではないと思いました。自分自身から差別をなくしていかないと明日が来ないと思いました。

T: 自分自身からそれこそなくしていかなんだら明日が来ないっていう解放に燃える熱意・意欲っていうのが感じられますね。他にはどうかな。同じような事でいいから。同じ事でも必ず言って下さい。はい三木君。

S: 『人の世に熱あれ、人間に光あれ』という言葉が僕の心に残っています。どうしてかというと部落の人達は自分達の幸せだけでなく人間全体の幸せを願っているからです。もし僕らがあんなにいじめられたり泣かされてきたらいじめてきた人達を恨むしそうすると思います。だからこんなにいじめられてきたのにそれでもまだ人間全体の幸せを願っていることは本当にすばらしいことだと思います。

T: 先生もそう思います。今までの長い歴史、迫害の歴史の中であんなにも人間にいじめられてきたにもかかわらず差別した人間を仕返すっていうんじゃなくて人間みんなの幸せを願ってるそのやさしさ、大らかな心本当に人間としての温かさそういうんが伝わってくるなぁ。はい他にどうかな。

S: 最も心に残ったのは『吾々はかならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によって祖先を辱め人間を冒涜してはならぬ。』というところです。自分達は言い表しようもないほどひどい差別を受けてきたのに自分は人をばかにはしないんだという考えは立派だと思いました。そんな考えがあったからこそひどい差別にも耐えて水平社も創立することができたんだと思いました。

T: はいありがとう。今、手を挙げとった人おったでしょう。はい立って言って下さい。

S: 私は一番心に残った文は『吾々はエタである事を誇り得る時が来たのだ』という文です。その理由はみんなが一番嫌がる仕事をさせられてしかもそれを誇りに思うことができるのはすごいなぁと思いました。それなのに周囲の人は人間でないような扱いをしてとても腹立だしい思いがありました。みん

なが嫌がる仕事をしていた部落の人達がそれを誇りに思ったということはすばらしいと思いました。

T: はいつなげて下さい。

S: 私も『吾々はエタであることを誇り得る時が来たのだ』という言葉に心を打たれました。それはやっぱり自分がみんな言うように人間に差別されてきたのに人間を憎まんと自分は差別したことがないという事を言ってその言葉を言ってるんだと思います。

T: はいどんどんつなげていってな。

S: 『祖先を辱め、人間を冒涜してはならぬ。そうして人の世の冷たさが何んなに冷たいか人間をいたわる事が何んであるかをよく知ってるる吾々は、心から人生の熱と光を願求礼賛するものである』というところで差別をされてきたからこそ人のいたみとか苦しみとかがよくわかって差別されてきたからこそ本当の人間の温かさというのができてくると思いました。

T: 差別されてきたからこそ本当に人間としての温かさを持ってるんだっていうことですね。はい他にどうかな。

S: 水平社宣言を読んで『人の世に熱あれ、人間に光あれ』ととという文で『人の世に熱あれ、人間に光あれ』というところがすべてを訴えているような気がするからそれが心に残りました。

S: 僕も『人の世に熱あれ、人間に光あれ』というところがすごく心に残りました。理由は『人の世に熱あれ』というのは誰もが差別をうけずに熱くなってほしいということだと思います。『人間に光あれ』は誰もがみな光っている存在であってほしいということだとおもいます。だからこの文が部落差別解消への道なんだと思いました。

T: ありがとう。

S: 僕も山口さんと同じで『吾々はエタであることを誇り得る時が来たのだ』というところが最も心に残りました。それは今まで差別をされても人間の誇りを忘れず差別をしなかったということがとても心に残りました。

T: 差別されたにもかかわらず自分は差別をしたことがない差別はしなかったんだっていう人間としての誇りを感じたっていうことですねぇ。はいずっとつなげて下さい。

S: 僕も長谷川君達と同じで『吾々はエタであることを誇り得る時が来た』という文でいろんな差別を受けてきたけど人を差別したことだけは決してなかったというところが心に残りました。

T: ありがとう。

S: 一番心に残った所は最初の『全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ』というところでこれは１人だと弱いけどみんなで協力すれば何でもできるという意味が込められているからです。団結という言葉の意味をこの資料によってまた深く思い知らされました。

T: みんなは２年生の時に『渋染一揆』っていう資料について学んだですね。あの時に団結のすばらしさみんなが心を一つにたたかい抜く団結のすばらしさっていうのを資料をとおして学習してきたんだけれどもここでまたあの団結のすばらしさっていうんを勉強できたなぁと思います。はい今の団結っていうことについてつなげて下さい。

S: さっきの団結という言葉で団結すればなんでもできるような感じがしました。そしてこの団結によっ

て私達が大人になるまでに部落差別がなくなってほしいと思いました。

みんなが心を一つにして支え合い助け合うからこそ団結したかいがあったと思います。

T: はい、みんなが心を一つにして支え合うっていうことそれが団結なんだ。一人ぼっちにしない必ず支え合いながら仲間の命を守っていく。団結してお互いに仲間と共にたたかっていくことのすばらしさですね。長い間差別に遭いながらも自分達だけでなくて差別した人に仕返しをするっていうんでなくて人間全体の幸せを願って人の世に熱あれ人間に光あれっていうふうに願うその温かい部落民衆の心本当のやさしい心が伝わってきますね。で、この宣言文は俺も人間であるぞ人間なんだぞっていう叫びが先生には聞こえてきそうな気がするんですよね。差別に苦しむ人達の思いが伝わってくる。吾々も人間として認めてほしい、人間として生きたい、自由に生きていきたいっていう思いがこの宣言文の中から伝わってくる。それと同時にこれから行く先にどんな障害があろうとも自分達の力で必ず解放を勝ちとってやるんだっていうたたかいの炎が燃えているっていうそういう部落民衆の熱い決意がこの宣言文を読んだ時に伝わってきて胸がジーンとしてきます。はいそれではね水平社宣言について今たくさんの友達がいろいろ言ってくれたんだけれども水平社宣言が私達に問いかけているものそれは何だろうかっていうことについて話し合っていきたい。どうかな水平社宣言が私達に教えてくれてるものって何だろう。

S: この宣言が教えてくれたのは差別されてきた人々の努力だと思います。低い身分におかれて人の嫌がる仕事をさせられても人間としての誇りを絶対に忘れることはなかったというようなことを僕は学んだように思います。

T: はい、大川さん、岩下君といきましょうか。はい。

S: ・・・?

T: はい、ありがとう。

S: 水平社宣言が僕に教えてくれたことは自分の心の中にあって気づかないでいた差別心やその差別心を自分の力でなくしていくということを教えてくれたと思いました。

T: はい、吉川さん、土内君、ほれから稲富さん、山口さん。

S: こんなみにくい差別があるということとこの同和問題の差別が本当におそろしいということを教えてくれたと思います。私も小学校の時はみんなの言っている事は・・・。かわいそうやけん～したげると言われた時、すごく腹が立ったので同情はやめました。私はこれからは人々にむかってこういうことはいわんって思いました。・・・?

T: 水平社宣言の一つの大きな柱の中に同情融和の否定っていうんがあったね。今吉川さんが言ってくれたのはそれだったと思うんですね。かわいそうなけん、何々してあげるって友達が言ったときにすごく腹が立ったって。だから私はぜったいこんなこと言わんようにしたいって。そういうことですねぇ。

S: 『太陽が昇るから夜が明けるのだ、太陽が近づくかられい明があるのだ』というところです。これは自らの力で解放して自らの力で差別をなくしていくということだと思います。

S: 水平社宣言が私に教えてくれた事はなんていうか本当は・・・?たものが強い感じがするんだけど・・・・?協力すれば何でも出来るんだと思いました。・・・?

T:団結とは弱い者が生きていく知恵であるということやな。

S:水平社宣言が私に教えてくれたものは部落出身ということを恥ずかしがるなっていうことだと思います。自分が部落出身と知ったとき一番初めに思ったことは恥ずかしいということです。でも（胸つまらせながら）勉強して先生やと全体学習の授業を深めていく中で恥ずかしいと思っている自分が差別者であるということがわかりました。そして部落差別について・・・今までの・・・何も恥ずかしがることはないんだということがわかりました。

T:はい、ありがとう。今山口さんが言ってくれたことわかるかな。部落の歴史や真実を知って全然恥ずかしいことなんかないんだということな。部落に生まれた事は全然恥ずかしいことなんかないんだ。祖先が何を悪いことをしたんだっていう怒り。怒りの涙なんよ。そんな恥ずかしいことはした覚えがないっていうことよね。はい。

S:えーと前映画見てほんで最後にあの宣言文・・・。・・・？
そのことであの一人の少年が１４才になる少年が今私達は泣いている時ではありませんって言ったでしょ。それでね、私もよくそう思います。なんか今はみんなが一人の力では何もできんけどみんなが団結したら差別はなくなっていくと思います。だから今、今を一人でも泣かさんようにしたい。何って言うてええかわからんけど一人でも差別に苦しんで泣く人達をなくしていかなあかんと思いました。

T:ありがとう。

S:僕が水平社宣言から学んだことは人は助け合い団結すれば駄目だと思っていることでも解決できるんだっていうことを学びました。

T:団結。はい、坂田君。あっごめんなさい、松長君。言うてくれるんな。

S:水平社宣言から教えてもらったものは差別に負けない部落の人達の強さから僕は差別なんかに負けてはいけない差別から逃げてはいけないことだということを教えてもらいました。

T:すばらしいなぁ。差別に負けてはいけない、逃げてはいけないっていうことなぁ。強く生きていかなあかんなぁ。

S:水平社宣言は僕に人を尊敬することを忘れてはいけないということを教えてくれたのだと思いました。お互いの存在を認め合ったり人の生きかたを尊敬しあうことは一番大切なことだと思いました。

T:はい、あの今、坂田君が言うてくれたことだけれどもね。尊敬し合うことが本当の人間の姿やと思うんよな。人を人として尊敬して生きていく。人間ていうのはあわれむべき存在じゃなくって尊敬すべき存在なんだっていうこと。人間は人間としてお互いに尊敬していかなんだらあかんていうことやね。これが一番水平社宣言の底に流れている思想ですね。それが人間の尊厳っていうことです。今このことについて言うてくれたんね。では続けて下さい。ほな犬伏、酒井それから竹内、富永、佐野、岡それから・・・とね順番にほな、言うて下さい。

S:僕に水平社宣言が教えてくれたことは団結の大切さと友達を信頼することの大切さだと思います。今僕にできることは自分の意見をみんなに聞いてもらってみんなから信頼されることだと思いました。

T:はい、ありがとう。

S:水平社宣言は僕達みんなに部落の人がどれだけ苦しめられてどれだけいじめられたかをわかってもらっ

てほのような差別をしてはいけないということです。

S:水平社宣言は人間を人間として認めていく生き方や・・・がわかりました。私も差別される自分が恥ずかしいと言っていたけどみんなといろいろしゃべっていたらだんだんとその気持ちが変わっていきました。誇りある生き方も西光万吉の大切な言葉で「良い死に方をするためには良い生き方をしなければならない」ということだと思いました。

T:今のあの竹内さんが言うてくれた言葉な、西光万吉のお父さんの言葉ですね。「いい死に方をするためにはいい生き方をしていかなければいけない」人間を人間として尊敬する生き方、ほんまに人間のこれが本当の生き方だと思うっていうことなぁ。はいつなげて下さい。

S:私にはこの水平社宣言は・・・を教えてくれて・・・?。

T:同情融和運動、同情融和の否定ね。そういう事ゆうてくれたんな。はい。

S:私はみんなの言っていることっていうか・・・?。

さっき山口さんか涙を流して言ってくれたことの部分だけどあんなにあえて苦しい思いを言っているのにみんなは下を向いて意見を言わずにどういう考えをしているのかわからないんだけど犬伏君のように意見を言って自分の考えをわかってほしいという友もいるんだからみんなは下を向いてないで意見を言ってほしいと思いました。

T:ありがとう。佐野さんの意見に応えて下さい。

S:今までの私は・・・でした。でも・・・?人間とはあわれむのではなく尊敬し合うべきだということを学んで人間はお互いの存在を認めあう人間社会をつくりあげていかなければいけないと思いました。

T:うん尊敬し合っていきていかなければならないということ。とても大事なことね。はい中川さん。

S:人間の尊厳をおかしてはならないと思いました。人間の尊厳が生きていくうえでどんなに大切であるかということ・・・?人を幸せにしていくことにつながると思います。

T:あのさっきな、山口さんが涙を流しながら言うてくれたね。そのことについてもうちょっとみんなの意見聞きたい。佐野さんはそれをみんなに言っているんだと思う。はい、佐藤さん。

S:私は初め部落問題学習をするのが嫌でした。でも私の考えを変えてくれたのは山口さんでした。さっき山口さんが涙を流しながら言ってくれたのに私は何もよう言いませんでした。その時に何しよん私は一体何しよんと思いました。それから私は山口さんにこたようと思って頑張ろうと思いました。

T:はい岡さん。

S:前に体育館であった部落問題の・・・のことを思い出して・・・?その時に自分は部落出身だったけん・・ということは差別に打ち勝っているんだから・・?自分も負けずにいきたい。

T:はいみんなにもっと言ってほしい。はい、鈴江さん、ほれから三木君といこうか。はい。

S:私も最初は差別・・?部落問題学習はちょっと嫌な感じがしてなんかしんどいなぁっていう感じだったんです。で、なんかあの・・さんがね一年生の時ね・・なんか自分は部落であると語ってくれたんだけどそのとき私なんかほの時はねなんか部落の人を特別な目で見ていたような感じだったんだけどね。ほなけどね今まで学習してきた中で部落であることを語ってくれた友が自分を変えてくれたので

・・・？私も部落の人と同じようになりました。みんな考え・・・泣いている友達がいたらその子に対して・・・？わからんちょっと・・・。

T:あのさっきな、私を変えてくれたって言よっただろう？どんなふうに変えてくれたん。

S:・・・していく中でなんか自分が意見を言うことによってみんなに信頼されていくっていうこととか・・・？

T:はい三木君。

S:僕も最初は自ら部落出身っていうことを言っている子を見てそんなこと言うから差別されるんだということを言っていたけど「水平社宣言」を学んでいくうちにやっぱり訴えていかなくては差別は絶対になくならないということを教えられて・・・。

T:ありがとう。あの丸岡さんの生き方ですね。６月にならった「丸岡さんの同和教育への願い」の中で丸岡さんが自ら立ちあがって周囲に訴えていくあの生き方やな。はい吉川さん。

S:・・・？部落問題に・・・？いけると思うから。私はこれから山口さんや他の人達を支えられる人間になりたいです。

T:はいありがとう。もっともっと聞きたい。

S:私が言ったことでみんながこやって意見してくれるんだけど自分の本音を言ってくれてその人達を見て私はまだまだ自分の本音が言えて無いという気がしました。そしてみんな心の奥底では差別心があると思うんだけどその差別心をなくしていくためにもみんなが本音で自分の気持ちを言うことで差別がなくなっていくと思います。だから・・・？自分の嫌なところもみんなに知ってもらった方がいいと思いました。

T:はい、ありがとう。

S:山口さんが泣きながら一生懸命語ってくれたんだからそれに応えるように僕もみんなもかわっていかなければならないと思います。

T:はい、池田君。

S:みんな前の公開授業や・・・でないけどなんで僕は泣かなあかんのかと思いました。水平社宣言にもあるように泣いても始まらないと思いました。泣くぐらいだったらもっと自分を強にしていったらいいと思います。

T:はい鈴江さん。

S:えーとあのみんなね今の・・・ていうか山口さんが・・・？でも私はあの山口さんでなくみんな部落の人のみんなに・・・のように自分の本音を語ってもっと自分を変えていきたい。

T:みんなの本音をもうちょっと語りあって自分の心を変えていきたいって言よるよ。はい坂田君。

S:僕も自分を変えていきたいと思っています。今まで全体学習とかあって僕はいつも発表したりしませんでした。けど山口さんのような僕達の大切な仲間に涙を流させるような（胸をつまらせながら）苦しい思いをさせている部落差別を絶対になくしていこうと思いました。

T:はいありがとう。みんな今までいろんな資料を通して部落の祖先の人達がどんなに苦労して生きてきたかということを勉強してきたでしょう。どんなに差別を受けてもどんなに迫害を受けても一生懸命

仲間の命を助けるために助けたいがために自分の命を犠牲にしてまで差別と闘ってきた歴史があるでしょう。そういう人達の思いをみんなが受けついで大事にしていかなあかんと思う。決して部落に生まれたことが恥ずかしいことでないということ。我々がえたであることを誇り得る時が来たんだというのは人間として立派に生きてきたんだから差別を受けたことはあっても自分は人に向かってお前はえただとか言って差別したことがない。そういう我々は人間としての尊厳を大切にして生きてきた。人間というのは尊いものだ。我々こそえたであることを誇れる時が来たんだっていうのはそういう意味だと思うんよ。ね、決して恥ずかしくないむしろ差別する人間よりも誇れるんだ。誇らしい生き方をしてきたんだということなんよ。はい鈴江さん。

S:私ね、なんか今までっていうか・・・友達と話し合った時にだから私ほうゆうんすかんちゅう子もおるんです。それで私も友達・・・？という感じで聞っきょったんですよ。でも今自分がごっつい恥ずかしいなって・・・今自分がゆるせません。これからは自分の意見をはっきり・・・。

S:泣いている人の涙を見て悲しみの涙が怒りの涙に変わった時にみんなが少しずつでも勇気を出していってその少しずつの勇気から団結へと変わっていけるような感じも今、しています。そしてまだまだ私達、私と意見が違う子もいると思います。そしてその友が意見してくれることによって泣いている人の涙が変わっていけるようになったら差別がなくなるかもしれないと思いました。

S:泣いている人とかもあの悲しいから泣いたんとは違うと思います。やっぱりほんとはちょっとは・・・さんが変われるって言ったけどやっぱり心の中で変わったと思います。やっぱり自分なりにしたことがくやしかったり自分が恥ずかしかったりして泣いたんだと思います。

T:今の発言について何かありませんか。

S:苦しい・・・。・・・？

T:今なお差別が続いているっていうことな。それはいったい誰に責任があるんで。今も部落差別が残ってるっていうんは誰に責任があるん。

S:今の先生の言葉で思い出したんだけど傍観者は差別者という言葉でやっぱり人が発表している時に下を向いているのではなく本音を語りたいと思いました。

T:ありがとう。自分に関係ないっていうんで傍観してるんでなしに本音で語っていこう。それぞれ自分達が差別者でないかどうか心に問い直してみて。差別者が差別を残していっきょるんだろう。差別される人がいるから差別があるのではないだろう。そのぐるりをとりまいている差別者である我々がおるから差別が今だに残ってるということやな。それがいまだに差別がなくなってない根本的な大きな原因なんよ。私達人間が作り出した差別を私達人間の手でなくしていかないかんのにまだ残ってるんですよ。そして部落差別に悲しむ人がたくさんいる。これをどなにしていかないかん。

S:ここでみんなの意見を聞いていると自分の心の中の差別心をなくしていけるような勇気がわいてきます。

T:はい、佐野さん。

S:私は自分は差別者だと思います。そして下を向いて意見を言わない人も差別者だと思います。そしてそのことに気づいて意見を言ってくれることによって自分の心の中から少しずつでも差別心がなくなっ

ていくような気がします。それでこんなに部落問題学習をしていて心の中が・・・泣いている人達を見て何も思わないのは変だし意見を・・・。誰にだって・・・なんかないんだから自分の心の内から差別心をなくしていこうと思ったら意見を言うべきだと思う。そのことがみんなに差別解消への炎をともすことにつながると思いました。

T: ありがとうチャイム鳴ったようなんやけどね。ほんとはもうちょっとみんなと語り合っていきたいなぁと思うんやけど先生は全体学習や教室の授業を通してみんなの仲間の涙を何度か見ました。「私は部落出身です」って何人かが言うてくれたな。その時その子の生き方とか涙を見た時にほんまに先生は自分自身すごく恥ずかしくなった。そして心の底から反省したんです。自分はこんな生き方をしていいんだろうかって。みんなあんなに一生懸命にけなげに生きてるのにいったい自分は何しよんでって絶対自分が変わらないかんと思った。そのためにね、こうやってみんなと一生懸命部落問題学習をやってるんよ。先生は「水平者宣言賛歌」の中にあった「太陽が昇るから夜が明けるんだ」というこの言葉がすごく好きで胸にジーンと伝わってきました。やっぱりみんな一人一人が解放の主体者となってたちあがっていかないかんと思います。こんな不当な差別でだれもが苦しむことがないような社会を作っていかないかんということ。そのためにはみんな一人一人がその太陽になってほしい。みんな一人一人が解放の主体者となってがんばってほしい。そして一日も早く夜明けを導いてほしいと思います。終わりにします。

起立　礼。